

第1回福井城山里口御門復元考証専門委員会 議事概要

日 時 平成25年8月1日(木) 10:30~12:00

場 所 福井県庁3階 第2委員会室

(1) 福井城山里口御門復元考証専門委員会について

(吉田委員長)

- ・完成を目指しているのは、平成28年度、平成29年3月ということでしょうか。

(事務局)

- ・平成28年度を目標にしているが、どの程度石垣の修復が必要になるか、木材の調達等で、時間を要する可能性があると考えている。1~2年の余裕をみて、福井国体までに完成させるものとして県都デザイン戦略の中でも位置付けており、そこを目標にやっていきたい。

(2) 福井城山里口御門の復元整備について

①復元整備予定地の状況、および史料

(吉田委員)

- ・補足として、資料2-2に「御城下之図 貞享二年」ということで二つ並んでいるうち、番号(1322)の方の[1685年]とは、松平文庫目録の題名そのままだが、これは、正保の幕府提出の城絵図だとほぼ確定しており、1640年代前半のものである。

(吉田委員長)

- ・文化8年の絵図には山里口御門が描かれていないが、これは無かったと捉えてよいのか。

(吉田委員)

- ・わからないが、多分無かったのではないかと。

②福井城石垣の現況

(吉田委員長)

- ・資料3-2-1の中で、はらみ状況というのがあるが、平成15年3月と平成22年3月では、はらみ出し量が減っているということか、それとも測量の仕方の違いということか。

(事務局)

- ・平成15年と平成22年で測量方法が少し違っているので、単純比較はできない。さらに若干の誤差も含んでいる。

(吉田委員長)

- ・見た目のはらみは気になるが、石垣の上に荷重がかかるとどう影響するかといった、構造面の調査はどのように考えているか。
- ・山里口御門で影響するのは一段低い石垣だけだが、西側に塀を設けたり、あるいは坤櫓を復元するとなってくると、石垣の耐力が問題になってくる。構造的な面の調査もこれから進めるべきだと思うが、いかがか。

(事務局)

- ・今年度の基本設計の中で修復方法について検討いただいた上で、石垣の耐力などについては、来年度の実設計の中で必要に応じて調査を実施していきたい。

(吉田委員長)

- ・山里口御門側から少し離れると、裏込石ではなくてコンクリートで石垣を固めてある。このことによって、何か弊害は出てきていないのか。

(事務局)

- ・修復している部分に関しても比較対象ということで定点観測しているが、現況では全く動いていない。

(仁科委員)

- ・夏場はふくらみ、冬場は縮まる。3年観測をやってきたが、そういうサイクルの変化はある。市民の方は目視で膨らんでいると言われるが、実はそんなに変化はない。昔の石垣の写真と比べて極端に変化していることもない。

(平井顧問)

- ・福井地震の時はどうだったのか。

(仁科委員)

- ・崩れて、そのまま長い間直さなかったが、県庁の建替えの際に、機運も高まり修復した経緯がある。

(吉田委員長)

- ・新たに直したところが歪んできているとか、はらんできているということはないのか。

(仁科委員)

- ・今ははらんできている状態はない。

(吉田委員長)

- ・将来的には石垣もきちっと整備していく、このままの状態でおくわけにはいかないのではないか。

(仁科委員)

- ・上部の構造をどうするか、将来の塀や櫓の復元を考えた場合には多分持たないのではないか。そういう計画の中で石垣の積み直しということになるだろう。見てくれが悪いからその部分だけ積み直しということにはならないだろう。

(平井顧問)

- ・他の例では、櫓を建てる時石垣に荷重をかけないため、そんなに問題は起こらない。石垣に荷重をかけないことは文化庁の方針であると思う。
- ・通常は石垣の上を少し漉き取って、地盤改良した所に荷重をかける。しかし、地震の時に石垣だけ崩れたらどうするのかという話もある。石垣がアーチ状になっているのに荷重がかかっていないという事は、地震には非常に弱いはずで、そこだけ壊れる可能性がないとはいえない。

③埋蔵文化財調査の概要

(吉田委員長)

- ・図面にある、両側の石垣についている跡を、柱受けという呼び方をしているが、非常に気になる。柱を受けているものではないだろう。もう少し丁寧に言うな

ら、石垣に添えている柱だということで、石垣添え柱と言ってはどうか。

(平井顧問)

- ・それだと、石垣のために添えている柱というイメージになってしまう。添え柱跡と言った方が良い。
- ・他所でも同じ跡に対する名前を使っているはずなので、確認してはどうか。

(吉田委員長)

- ・御廊下橋は復元の際に少し上げている。今回、門を復元する際のグランドライン、地盤の高さの関係はうまくいくのか、非常に気になっている。また、県庁側も御門の地盤の高さと現在の地盤の高さとの差が大きいため、そこをどう解決するか、大きな問題になってくる。

(仁科委員)

- ・段差がつくとバリアフリーにならなくなってくる。今の天守台に登る階段も、下にまだ3段埋まっている。そこまで下げれば門からうまくつながるが、今度は県庁側のすり付けをどう解決するか考えなければいけない。

(吉田委員長)

- ・石垣にこれだけの遺構があるので、それは活かすべきであり、もし御門を底上げするならば石垣を積み直して遺構を上げる必要が出てくるかもしれない。これからの大きな検討事項になってくるだろう。そのような具体的な例はどこかにあるのか。

(平井顧問)

- ・遺構が出てきて、その位置を変えた例はない。そのままの位置で作って、高低差は内側でなんとか処理しなくてはいけない。

(吉田委員長)

- ・金沢では、五十間長屋を復元し、橋爪門を作る時に地表面の高さが違っていたという話を聞いたが、どうだったのか。

(平井顧問)

- ・やはり石垣に痕跡は残っていて、その通りにやっているはずである。

(事務局)

- ・今回掘って出てきた排水側溝の天端から、元の地盤まで60～70センチの段差の解消が問題となる。

④基本設計

(平井顧問)

- ・説明の中で、冠木門と言いながら、形態は高麗門であったりする。表1でも、山里口御門の所には冠木門と書いてあって、瓦御門のところには高麗門と書いてある。この門の名前の根拠は何によっているのか。

(事務局)

- ・冠木門の名称については、歴史資料に基づいて記載している。実際の形態としては高麗門なのか棟門かは分からないが、現在の調査段階では棟門だと考えている。その辺りがはっきりしないということで、ご指摘をいただいたものは訂正したい。

(平井顧問)

- ・冠木門は文献資料からそう書いてあるということか。冠木門というのは正式には屋根のない形のものである。
- ・しかし、江戸城では形態として高麗門を作りながら冠木門と言っているの、ない話ではないと思う。
- ・山里口御門には冠木門と書いてあって、同じような史料には瓦御門の方はどう書いてあるのか。高麗門という名前が文献史料としてはっきり出てくるのか。

(事務局)

- ・そこまで細かく見ていない。寛文9年に焼失した建物が書いてある文献があり、その中に、瓦御門についてもあるはずである。

(平井顧問)

- ・瓦御門も高麗門ではなく、冠木門と書いてあれば、そういうものをここでは冠木門と言っていると言えることとなる。

(事務局)

- ・名称は整理ができていない。姫路城の水一門が高麗門でなく控え柱がない棟門で、そういう門が山里口御門も枡形の一番前の門についていただろうと考えて

いる。

- ・一の門や二の門という言い方の記録はないので、ご指摘の通り、どう表記した方が良いかという事は、今後気を付けていきたい。

(平井顧問)

- ・これから名称を使っていく際、他の門も合わせて、福井城での呼び方をはっきりした方が良い。それが曖昧であれば、復元にあたってはこの名前を使うと決めて使わないと、後で報告書を読んだ人が混乱する。

(仁科委員)

- ・山里口御門という名称についても、県の埋蔵文化財調査センターの方で、福井駅の連続立体交差事業に伴う発掘調査の報告書を作成しており、その際、色々な文献などを調べあげていて、いろいろ疑問点が出てきた。
- ・山里口御門は古い時期に一度しか名前が出てこない。その後一番出てくるのは埋御門という名称である。廊下橋御門という名称もある。
- ・復元するのだから、名称を検討しておいた方が良い。後々色々言われないう、なぜそうしたのかもはっきりさせておくべき。
- ・いつの時点の門で復元するかということと合わせて名称を検討することが必要だろう。

(吉田委員長)

- ・天守臺下門という名称もある。

(吉田委員)

- ・指図は本丸の中を示しているだけなので、本丸から見れば山里に出る門で山里口御門となり不自然ではないが、城下図全体では山里奥御門、南山里御門があり、これと山里口御門という名称はよく似ており、紛らわしい。
- ・文献などに一覧として出てきている場合には、廊下橋御門となっている。

(吉田委員長)

- ・しかし、山里口御門ということで走っているので、これを変えるのは大変なことではある。このことも考慮しておかなくてはいけない。

(平井顧問)

- ・名称の根拠をしっかりと示しておく必要がある。

(吉田委員)

- ・山里口御門の形態は埋門というのか。埋門とは、石垣をくり抜いて作られており、通常は開かずの門ではないか。

(平井顧問)

- ・確かに、通常はこの形で埋門とは言わない。

(吉田委員)

- ・御廊下橋と山里口御門は、御座所が三の丸にある時だけ機能した。御座所が本丸にある場合は開かずの門になる。その感覚で埋門といったという可能性もある。年代的に機能していたかどうか確認は必要である。

(吉田委員長)

- ・埋門という名称は、御廊下橋が「ハ子ハシ」だったころの名称が残っているという気がしなくもない。
- ・名称については、事務局で整理してほしい。

(3) その他

①中央公園周辺再整備について

(吉田委員長)

- ・とりあえず赤く囲まれた第1期の部分を整備し、第2期の整備時期がかなりずれると、非常に中途半端な状態の公園が残る。
- ・プロポーザルを一体として実施しているのであれば、全体を一気に整備した方がよい。
- ・できるだけ第2期整備も引き続いて行われるようお願いしたい。